二十歳のころ

C 班 柏崎珠希 黄沢興 藤原拓馬 納富和真

はじめに

私達は「ファッションや若者のカルチャー」に興味がありそれらの情報を発信するカエルム株式会社の雑誌に深く関心を持った。その中で今の私達が関心を持つものを将来に生かすにはどのようにしたらいいのか、また今私達がすべきことは何かということについて知りたいと思った。そこでカエルム株式会社の代表取締役社長を務めている戸川様にお話を伺う機会を頂いた。

〈取材させていただいた方〉

○カエルム株式会社

雑誌・書籍の企画・編集・発行等の企画・制作・デザイン・コンサルティングを行っている。女性ファッション誌 NYLON JAPAN を主軸として、CYAN, SHEL'TTER 等を発行している出版社である。

○NYLON JAPAN

ニューヨークで 1998 年に創刊された NYLON (ナイロン) 月刊ファッション雑誌の日本版で 2004 年 4 月に創刊。主に 20 代～30 代前半向けとされ、ストリート・モード系のスタイルを中心に一部の号では海外モード界の最新コレクションなども紹介している。

○カエルム株式会社 代表取締役社長 戸川 貴詞 様

1967 年生まれ。長崎県出身。明治学院大学卒。大学卒業後、日之出出版という出版社に入社して、広告営業と 3 つの雑誌の編集を経験。その後独立の勉強のために広告営業と新しい科学雑誌の立ち上げで、初めて編集長という役職を経て 2001 年 12 月 10 日に創業。

〈インタビュー内容〉

Q：社長が二十歳のころは？

A：色んな事をしたが、何かが仕事につながっているのだという意識をして過ごしてはいなかった。ただ興味本位で想像できるバイトをすべてやってみた。(約 30 種類)ただ常にお金の稼ぎ方や楽しくて効率のいいもので稼げそうなものを考えていた。

■：我々の二十歳のころ(二十歳になっていない人もいるが)よりも達観した感覚を持っていた。「二十歳だから、学生だから」という風には考えていなかったようでアルバイトをとってみても原価率やなぜこの時給なのかということを考えようすれば売り上げがあがるかなど積極的に取り組んでいたとおっしゃっていた。

Q：働く際にお金かやりがいを重視するのはどちらか？

A：現在もお金の本質。ビジネスの場においてお金が発生しないことはない。やりがいは突き詰めたらお金。やりたいことだけやるのはビジネスでなくてもいい。

■：趣味ではないし楽しくてもお金が発生しないならビジネスである必要はないと考えていたようだ。

Q：働くとは？モットーはあるか？

A：極論を言うと、「生きている＝働く」。仕事とプライベートの境目はない。働かないという選択さえも働くための選択。

何十年も先のことはイメージすることはあるが考えていない。まさにコロナウイルスが流行することは誰も予想していなかった。(取材時：2月20日)だからこそ動ける頭と体を常に準備しておく。つまり「計画しない、挑戦しない」ことがモットーになる。

■：戸川さんは毎日のことだけ考えており、実際コロナで商品が届かないしプロモーションはいつするのか、いつ売り出すかという状況になったように、計画通りにはうまくいかないから、その場で瞬発力を生かして動けるように常に準備されているようだ。

Q：挑戦しなければならぬ状況（就活）での挑戦とは？

A：何をしたらいいかは一人ひとり違うし何をすべきとは一概に言えない。ただビジネスという面において確実なものを見つけるのがビジネス。一か八かではなくダメだった時のことも考えて動くのがビジネスである。チャレンジになっているようでは考えが足りないため、もっと考えを突き詰めるべきである。

■：今、自分がやるべき（勉強）ことをやるべき。究極これをやると就職に有利とかはない。アルバイトをとってみてもお金についてみると経営の構造からわかるかもしれない。あくまで自分がやったことであって誰にでも通じるとは限らないとおっしゃっていた。

Q：就職するにあたり求められる人材とは？

A：当たり前のことを当たり前でできている人が大事。知識、見識、胆識がある人は少ない。例えば紙屑が落ちていたとして、それを拾う人はどういう人か。知識がないと紙屑をゴミとしてとらえることもできないし、胆識がないとゴミとわかっても拾わない。そのような先のことまで想像できる人は少なく、そのようなことができる人は仕事をするうえで、文章を書くことだけに満足せず雑誌を買う人のためという先を見据えて考えて仕事をする。

また、会社や社会の求められている存在になろうとしてもただのマッチングだからその時企業が求めている人と自分が違うと落ちる。今日は必要だが明日はいらぬかもしれないタイミングの問題。企業がどういう人を求めているのを把握して自分の見せ方は変えられる。自分は100%受かった。

Q：今までで一番困難だったことは？ どう乗り越えた？

A：悩みはあるが困難はない。強いて言うとするならば幼い頃の喘息。治った時は最高の喜び。自ら問題を解決しにいていた。時間や環境が解決してくれるとは思わなかった。

■：戸川さん自身マラソンは速かったけど一位になろうとすると喘息の発作が起きて悔しい思いをしていた。

Q：好きなものを職業にするのに必要なものは？

A：1.好きなことで得意 2.嫌いなことで得意 3.嫌いなことで苦手 4.好きなことで苦手
効率がいい順に並べるとこの順番。できないのに好きだから一生懸命やるのは効率が悪い。自分のためより他人のためにやれること（得意なこと）のほうが絶対に効率がいい。やってみて得意じゃなかったらやめればいい。不安は一生消えない。例えば、ターゲットが広いことが正解ではないし最初から広くするのは難しい。一人ずつ増やして行って自分本位ではなく結局他人が何を求めているかで考えるべき。

■：一つのことと何がつながるか突然思いついて1日中考えているとおっしゃっていた。

インタビューを終えて

憧れの職業の一つである編集社の方にお話を聞け、このインタビューを通し日ごろ抱いている悩みや変なところで焦っていた自分に気づけた。「当たり前のことを当たり前にする」簡単なようで実は凄く難しく、本当にそれこそが、1番大切であるのだと気づくことができた。そして社長の視点から会社が求められる人材が分かるようになり人生について改めて考えることが来た。また、もうすぐ二十歳なので自分のこれからを改めて考え、今回の経験を忘れることがないように精進していこうと思った。最後に、お忙しい中私達のインタビューを承諾してくださった戸川さんに心より感謝し、改めて御礼申し上げます。